WHERE HAVE ALL THE GOOD TIMES GONE!

Words & Music by Ray Davies

チューニングについて一言。この曲のギターはノーマルより25~50 cent下げられて(A=430Hz位)プレイされており、いわば十音下 げチューニングである。これはレコーディング時に半音下げの状 態であったものを、曲のフィーリングを変えるためにテープ・ス ピードを上げたためかもしれないが、レコードと合わせてプレイ する時は、ピッチに気をつけてほしい。さて、Introのの前にこの 曲はシンバルのサウンドからスタートしているが、これはテープ の逆回転などによる効果音と考えてよいだろう。Intro①のギター は、少しヴィブラートがかけられている部分もあるが、ここはア 一厶を使うようにしよう。Intro②からのギターのリフがこの曲の メイン・リフだ。シンプルなリフだが、左手のスライドのテクニ

ックをうまく使うようにして弾きたい。この曲はミディアム・テ ンポの8ビート・ナンバーであり、ベースやドラムは問題なくプ レイできるだろう。ギターは、🖾の 4 小節目にあるようなオクタ 一ヴ奏法も行っている。ここは5弦など、余計な弦が鳴らないよ うに、左手でしつかりとミュートしながら弾くことがポイントだ。 このIAIの部分は、ボーカルのバッキングでもあるので、ギターは 音量をおさえて、少し右手でミュートぎみに弾くようにしよう。 □はギター・ソロだ。□の2小節目と6小節目にリズムのキメが あるので、しっかりと合わせるようにしたい。ここはピック・ス クラッチやアーミングなど、思いっきりハデにプレイしよう。



© by DAVRAY MUSIC LTD. All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.













HANG 'EM HIGH

Words & Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

Introは、ギターだけによるプレイだ。ここで弾かれているリフ は、5弦を飛ばしてピッキングしているので要注意だ。正確なピ ッキングでリズムが狂わないように注意しよう。テンポも速いが、 ピッキングはなるべく力強く行うようにしたい。高音部のフィル・ イン・フレーズに続いてスタートしているベースもリズムがもた つくことのないように、安定したピッキングでプレイしてもらい たい。囚のボーカルは、ほとんどメロディーがなく、どちらかと いえば"ラップ"に近いもの。ここは自由に歌ってもらいたい。

□の後半、1カッコの部分では、ライトハンド奏法も行っている。 ここはどの音もピッキングせずに、弦をフレットに叩きつけるよ うにする、"タッピング"で音を鳴らすようにしよう。チョーキン グしながらのライト・ハンド・タッピングや、アームを使ってい る部分もあるので気をつけてもらいたい。回のギター・ソロでは、 あまり複雑なフレーズは弾いていないが、テンポが速いので勢い の良いプレイを心がけてもらいたい。なお、チューニングは十音 程度下げること。









IO





























CATHEDRAL

大聖堂

Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

ギター1本だけによる、ソロの演奏だ。サウンドは、ほとんどディストーションさせずに、コーラス系のエフェクターをかけて弾いている。また、弾き方も少し特殊であり、右手はピックを使ってピッキングするのではなく、ほとんどボリューム・ノブをコントロールしているだけのようだ。囚の部分は、コードをプレイしているものであり、ここでは右手の指で軽くピッキングした後、ボリューム・コントロールでヴァイオリン奏法のようにプレイしている。ここはゆつくりと、自由なテンポで演奏してかまわない

だろう。 図からのプレイが面白い。 ここからはすべて左手のタッピングだけで音を鳴らしており、右手は1つ1つの音をボリューム・コントロールしている。 また、ここからはディレイが符点 8分音符の長さでかけられており、かなり複雑なフレーズに聴こえるようにしてある。 リズムが少しでも乱れると、ディレイの効果が生かされないので、しつかりとテンポをキープするようにしよう。







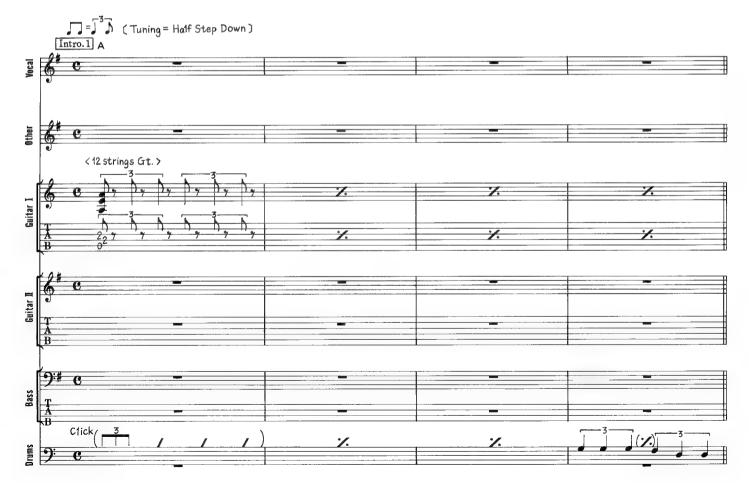


SECRETS

Words & Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

この曲では、ギターやベースが半音下げたチューニングでプレイしている。実際のキーは、譜面のものより半音下がっているわけだ。上段のGuitar 1 は、12弦のエレクトリック・ギターを使って弾かれている。そのサウンドはクリーンなものだが、少レコーラス系のエフェクターをかけているようだ。また、12弦ギターを使わずにハーモナイザーなどのエフェクターで同様の効果を出してもよいだろう。この曲では、リズムに気をつけてもらいたい。譜面の8分音符はすべて3連符のノリになっているのだ。Introのの部分などは2拍3連のリズムが続いているので、正確なリズムでプレイするようにしよう。なお、この部分、ガイド・リズムとして、スティックを打ち鳴らすようなクリック音が3連符で入れられている。Intro②から弾かれているリフがこの曲のメイン・リ

フだ。ここでギターの譜面にスタッカートのつけられている音は、右手で弦をミュートしながらピッキングするようにしよう。回はギター・ソロだ。下段のGuitar IIがソロを弾いているものだが、これはノーマルなエレクトリック・ギターを使い、ディストレーションさせたサウンドでプレイしている。回の4小節目は、ライトハンド奏法によるプレイだ。ここは左手で1音半のチョーキングをしながら、そのオクターヴ上を右手で押えているものだ。同様のプレイは、回の9~10小節目でも行っており、ここは音程に気をつけて弾くようにしよう。この曲の一番最後に出てくるタッピング・ハーモニクスは、ライトハンドで弦を押えるのではなく、軽く叩くようにしてハーモニクス音を鳴らすテクニックだ。タブ譜のカッコ内の数字が右手でタッピングする位置だ。

































INTRUDER

イントゥルーダー

Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

この曲は、次の「オー・プリティ・ウーマン」に続く前奏曲というべきものだ。かなりフリー・スタイルの演奏ではあるが、ドラムは8ビートのリズム・パターンを叩いており、しっかりとテンポをキープしながら演奏しよう。この曲では、シンセサイザーも使われている。そのサウンドは、ディストーション・ギター風のものではあるが、アナログ・シンセらしい、少し昔風のサウンドといってもよいだろう。ギターやベースは半音下げたチューニ

ングで弾かれており、シンセなども実際の音程は譜面のものより も半音低くなっているので注意してもらいたい。ギターは、ピッ ク・スクラッチや、フィード・バック音などをほとんどフリー・ スタイルで鳴らしており、あまり譜面にこだわらずに自由に演奏 してよいだろう。また、アーミングも多用しているが、これは思 いきり激しく、大きく音を変化させるようにしよう。



© 1982 by VAN HALEN MUSIC/DIAMOND DAVE MUSIC
All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.

34











(OH) PRETTY WOMAN

オー・ブリティ・ウーマン

Words & Music by Roy Orbison and Bill Dees

ロイ・オービソンが 64年に放った大ヒット曲のカヴァーだ。イントロと1~4小節目のギターは、アルペジオ風に弾いているもので、コードを弾くように音を残しながら弾こう。ここでは6弦2フレットを親指で押えてしまえば、コード・チェンジのたびに指を動かす必要はない。イントロ5小節目からは、右手のミュートをうまく使って、スタッカートで弾いている。また6小節目では、ピッキング・ハーモニクスで弾いた音をアームを使ってヴィブラートをかけるというテクニックも使っている。全体を通してギターのサウンドは、少しナチュラルなディストーションのかけられたものになっているが、コーラス系のエフェクターも使われ

ているようで、このサウンドはバッキングなどでのアルペジオ・フレーズに効果的なようだ。 Dの直前で弾かれているGt.2のフレーズは、クリーンなサウンドでのオクターヴ奏法だ。Gt.2はこの部分だけしか弾かれておらず、このフレーズをGt.1に取り入れるか省略するかすれば、ギターは1本だけで十分だ。この曲のベースやドラムもテクニック的にはほとんど問題なく、いたってシンプルなものだ。テンポも演奏しやすいミディアム・テンポであり、落ち着いてプレイできるだろう。この曲ではボーカルやコーラスに力を入れて、歌をじつくりと聴かせるようにしよう。



© Copyright 1964 by ACUFF-ROSE MUSIC, INC., Nashville, Tenn., U.S.A. Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only































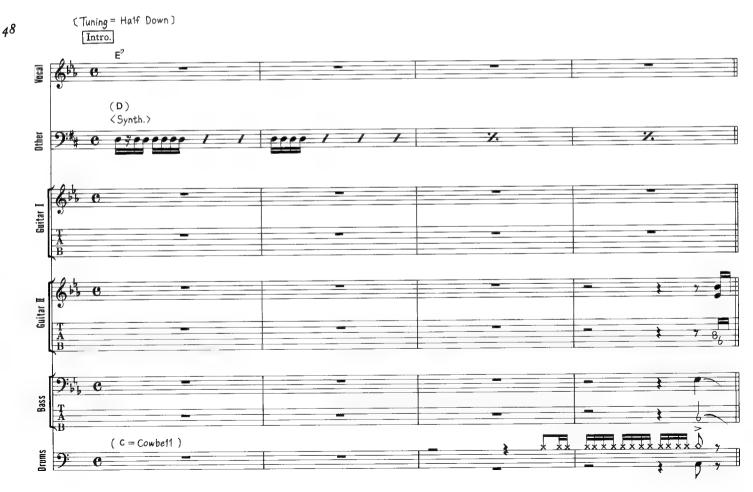
DANCING IN THE STREET

ダンシング・イン・ザ・ストリート

Words & Music by William Stevenson, Marvin Gaye and Ivy Hunter

オリジナルはモータウン系の女性コーラス・グループ「マーサ&バンデラス」が64年に放った大ヒット曲だが、ヴァン・ヘイレンの場合は後に「キンクス」がカヴァーしているので、そちら経由だろう。このヴァン・ヘイレン・ヴァージョンでは、シンセによるシーケンサー的なフレーズを前面に押しだしている。これは手弾きでもかまわないが、やはりシーケンサーを使った方が、きれいな16分音符を演奏できるだろう。リズムは16ビートであり、ドラムが叩くカウベルの音が印象的だ。譜面ではハイハットの位置に、Cの印で書かれているのがカウベルの意味だ。ギターは、シンセと同様なフレーズも弾いているが、まったくのユニゾンではなく、ピッキング・ハーモニクスやチョーキングを使って、少しアソビの音も加えている。ベースのパターンは休譜によるフレーズの間をうまく使ったものだ。ドラムのハイハットは両手を使

って叩けば問題はないのだが、問題はカウベルだ。レコードでは、このカウベルの音はオーバー・ダビングによると思われる。譜面では、ドラマーが叩けるようなパターンとしてコピーしてあるが、テクニック的にどうしても難かしい部分もあるだろう。その辺は各自工夫して、パターンを少し変えたりしてもらいたい。②では16小節のギター・ソロがある。ここでは細かいリズムの音譜も多いが、チョーキングやハンマリング、プリングなどの左手のテクニックを使って、安定したフィンがリングで弾くようにしよう。なお、譜面はシンセのみ実音で書かれており、他は半音下げチューニングに対応して記譜されているので注意。ノーマル・チューニングでプレイする時は、タブ譜の数字をすべて1つ下にずらして弾くとよいが、どちらにしても難易度は変わらない。











































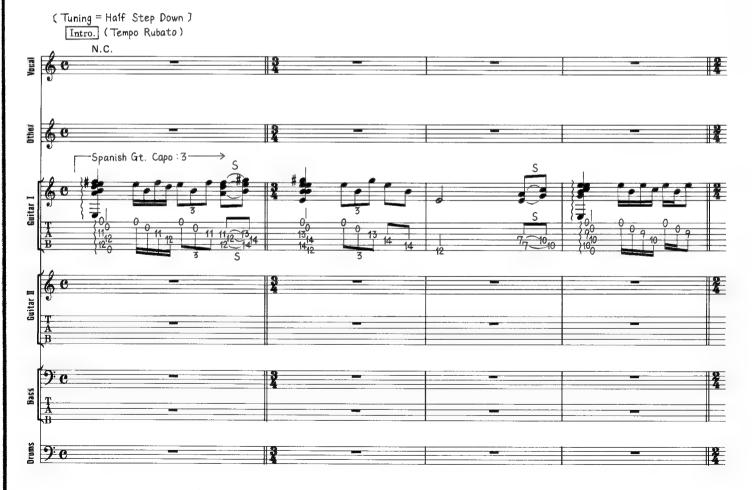


LITTLE GUITARS

Words & Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

この曲のイント口部分は、アコースティック・ギターによるソ 口演奏だ。スパニッシュ・スタイルのギター・ソロであり、使わ れている楽器は、クラシック・ギターと呼ばれるようなタイプの ものだ。この曲では半音下げたチューニングで演奏されているが、 このイント口部分のギターは、カポタストを3フレットにつけて 弾かれている。もしもノーマル・チューニングで弾くのならカポ タストを2フレットにつければ同じキーになるだろう。この部分 はピックを使わず、指を使ってのピッキングだ。Introの7小節目 からのトレモロ・ピッキングは、右手の人差指、中指、薬指、そ れに小指を使ってピッキングし、低音部のメロディーを親指を使 って弾いているのだ。これはフラメンコ・ギターなどでよく使わ

れる演奏スタイルだが、かなり高度なテクニックを要求されるも のだ。囚からは、エレクトリック・ギターによるプレイだ。囚前 半のリフではチョーキングのテクニックをしっかりと行い、音を なめらかにつなげるように弾こう。なお、ギターのサウンドは、 ナチュラル・ディストレーションに少しコーラス系のエフェクタ 一がかけられたものになっている。固のバッキングは、ピックの 他、指も使ってピッキングしているようだ。ここはスタッカート で、音を短く切るように弾こう。回で弾かれているギター・ソロ は、ボトルネック・バーを使ったスライド奏法だ。ギター・サウ ンドはナチュラルなものだが、少しディレイをかけて広がりのあ るサウンドを作り出しているようだ。













































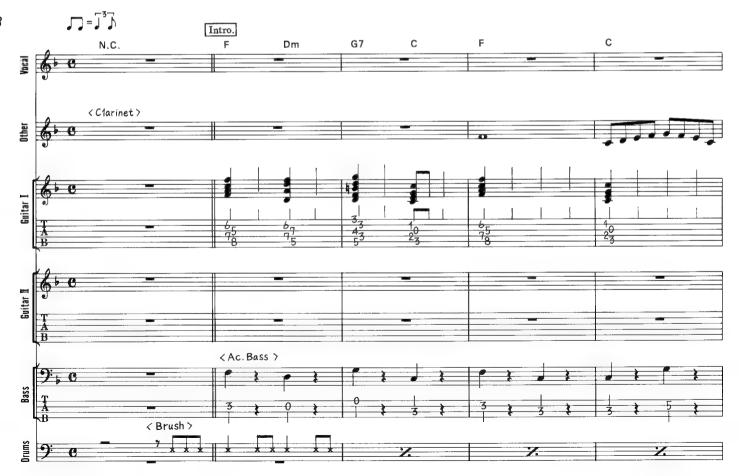
BIG BAD BILL (IS SWEET WILLIAM NOW)

ビッグ・バッド・ビル

Words & Music by Jack Yellen and Milton Ager

古いジャズのスタイルでの演奏だ。クラリネットも入れられており、雰囲気のあるプレイを行っている。ベースはウッド・ベース、ドラムもブラシを使っての演奏だ。リズムは8分音符が3連符のノリの、いわゆる"シャッフル・ビート"というやつだ。ギターはエレクトリックだが、そのサウンドは非常にナチュラルなもので、まるでアコースティック・ギターに近いものになっている。昔のジャズによくあったような、4ビートのカッティングを行っているが、アクセントを2拍と4拍につけるようにするのがポイントだ。クラリネットは、サンプリング・シンセなどで代用できるように譜面は実音で書かれている。本物のクラリネットを

使うときは、譜面よりも1音上の高さに移調して演奏するとよいだろう。軽快なテンポで演奏されているが、②の直前ではリタルダンドしているので注意しよう。ここはボーカルのメロディーに合わせるようにして、呼吸の合った演奏を心がけたい。ギターはすべてコード・カッティングを行っているだけだが、このコードは決して6弦全部を鳴らすのではなく、軽い感じになるように、3~4音だけ鳴らすようなつもりで弾くようにしよう。テンションなどを使った複雑なコードはほとんどないので、コード・チェンジもスムースに行なうようにしたい。



















































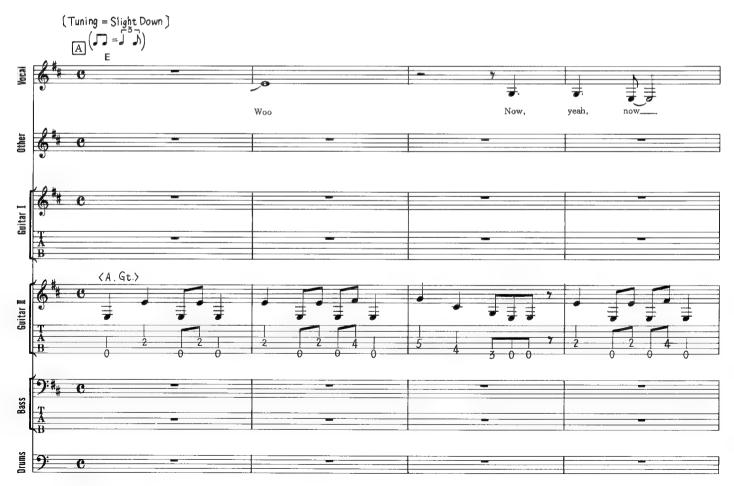
THE FULL BUG

ザ・フル・バク

Words & Music by E.Van Halen, A.Van Halen, M.Anthony and D.Lee Roth

ギター、ベースのチューニングはノーマルより 4音程度下げられているので注意。 国の部分のギターは、アコースティック・ギターを使っての演奏だ。ここは指を使ってピッキングしており、時々指で弦を引っかけるようにしてアクセントをつけている。 国の直前からエレクトリック・ギターガスタートしている。 ここはアーミング・プレイからのスタートだ。このギターは、かなり強力なディストレーションがかけられたものであり、ベースやドラムもパワフルな演奏になっている。 国のギターの譜面で〇印のつけられている音は、ピッキング・ハーモニクスを行っているものだ。これは、ピッキングど同時にピックを持つ右手の親指を弦に当てるようにしているもので、ここではかなり力強くピッキングしているようだ。ドラムのリズム・パターンはシンプルなものだ

が、ハイハットを少しオープンぎみにして、カー杯叩くようにしたい。 ©はギター・ソロだ。 2 音を使った 3 連符の連続からソロ・フレーズはスタートしている。このソロでは、スピード感のあふれるフレーズを弾いており、 ©の5~8 小節目などではスライドやハンマリングといった左手のテクニックをうまく使って、流れるような速弾きを行っている。ここはフィンガリングに気をつけて、一気に弾ききるようにしたい。 ©の9~12小節目は、ベースやドラムとのユニゾン・プレイだ。ここは正確なリズムでしっかりと合わせてもらいたい。 回はハーモニカのソロだ。ここでは、 のキーのブルース・ハープが使われており、 D*や、 A*の音は、それぞれE、 Bの音をベンディングして鳴らしている。























IOI























HAPPY TRAILS

ハッピー・トレイルズ

Words & Music by Dale Evans

この曲は、ボーカルだけによるコーラスだ。かなりコミカルな演奏ではあるが、ベース・パート、バッキング・パート、ソロ・パートなど、すべてボーカルだけで演奏しており、メンバーの息の合ったところを聴かせている。やはり全員がコーラスできるバンドは、こんな演奏もできてしまうというわけだ。Introから回の部分までの下段のパートは、ベース・パターンをスキャットで歌っているものだ。このパートは微妙な音程が多いので、特に難し

いパートといえるだろう。 図の部分の下段はソロ・パートだ。ここはリズムをあまり気にせずに自由に歌っているようだ。 上段はきれいなハーモニーでコードのバッキングを行っているが、ソロ・パートとタイミングを合わせるように歌おう。 ②は囚と同様のパターンだ。 短い曲だが、きれいにハーモニーが決まれば、非常に心地良いサウンドになるだろう。



© 1951, 1952 by PARAMOUNT ROY ROGERS MUSIC CO., INC. All rights reserved Used by permission Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan.